



令和5年度 日向市立富高小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

学校経営ビジョン	○ 明るく 元気で 楽しい学校 ○ ふるさとを愛し 伝統を守る学校
----------	--------------------------------------

【評価基準 4段階評価 4…期待以上 3…期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する】

重点指導項目	方策手立て	評価内容 (児…児童 保…保護者 職…職員)	自己評価			◆ 学校の自己評価コメント・改善点等 □ 学校運営協議会のコメント			
			昨年度	R5	総合				
確かな学力の向上をめざして	「わかる・できる」授業の実践	児：授業は、分かりやすい。	3.5	3.5	3.1 (3.2)	◆ 保護者・児童が楽しく授業に臨んでいる様子をとらえることができ、昨年度同様評価結果を得ることができた。職員の間際からも「わかる・できる！」授業の実践ができた。児童が楽しいと感じる授業の実践ができた。の取組が向上しており、児童の満足・充実感を与えられるような授業実践ができていことがうかがえる。効果的なICT活用を通じた授業改善に取り組んで研修を深めており、ICTを活用しながら児童の学力向上を目指している。今後も指導力向上や授業力向上を目指し、継続して取り組む必要がある。 ◆ 本年度実施した全学年・学期別調査(6年)では、国語・算数科とも全国 県とは同等であった。昨年度の学力テストからは、傾向が見られ、職員も年度末に指導を重ねており、児童も努力を重ねてきた結果が表れている。 ◆ 読書に関する評価項目別年度と比べ、数値が低く、向上は見られぬが、読書意欲の向上にこの方策を立てる工夫をいりまるとり、読書量も大きく伸びて、年間1万冊を超えている。家庭では、読書する姿よりメディア優先の姿が見られるのがおぼつかない。 □ 授業参観の際、児童・先生共に生き生きと授業に取り組んでいた。今後も日々の読書の学力向上につながるよう子どもたちの伸びるを大きく成長させてほしい。 □ ICT活用方法について、感染症により登校できない場合に、ICT機器を活用して授業に参加できる機会を確保したり、課題を与えたりするなど活用範囲を広げてほしい。 □ 漫画等の娯楽科目講座をもつてもらうが、活字中心の本を手に取って読むことによる姿をみる機会が少なく感じている。家庭での読書の機会を確保したり、親子で読書をするなどして、読書の習慣を身に付けてほしい。			
		保：先生は、分かりやすい授業をしている。	3.5	3.3					
		職：「わかる・できる！」授業の実践ができた。	2.9	3.0					
	児童が「楽しい」と感じる授業の実践	1 個に応じた指導の工夫 2 授業後の評価	児：授業は、楽しい。	3.3			3.3		
			保：子どもは楽しんで授業を受けている。	3.4			3.2		
			職：児童が楽しいを感じる授業の実践ができた。	3.1			2.9		
	読書活動の推進	1 読書の時間の確保 2 読書好きな児童の育成 3 学校図書館、巡回文庫の利用	児：読書をよくしている。	2.8			2.9		
			保：子どもは読書をよくしている。	2.5			2.4		
			職：読書の時間を設定し、読書活動の充実を図ることができた。	2.9			3.0		
児童が楽しいと感じる学校をめざして	いじめ・不登校ゼロ～魅力ある学校づくり調査研究事業の推進、「小中一貫教育の取組」	児：友達嫌がることをしたり、いじめたり、いじめられたりするところを見たことがある。学校を休まず、元気よく登校している。	3.4	2.9	3.1 (3.3)	◆ 多くの児童は、元気に登校し、充実した日々を過ごしていることが分かる。また、保護者も安心して学校へ通わせていることもうかがえる。その中でも、登校の困難や課題を要する児童については、毎月情報共有を行い、早期発見、早期対応が図られるよう、生徒指導室を中心として取り組んでいるので、職員の数からもうかがえる。さらに、充実した読書実践を行い、児童が安心して学校生活を送ることができるよう支援していくことが必要である。 ◆ 感染症(特に、インフルエンザ)の流行もあり、学期別調査等の措置をとったことからも元よく登校している項目に対して、保護者から見ると数値が下がったと思われる。 ◆ あいさつ会等に関する取組も今年度も継続して取り組んでいる。しかし、地域の人や安全監視員等の元気なあいさつが見られぬ場面もある。 ◆ 時々乱暴な言葉遣いをする場面を見かけることがあるので、また職員が丁寧で、適切な表現を心がけることで、実態の改善につながる必要がある。 □ 昨年度と比較すると、児童の評価が下がっている箇所がいくつかある。しかし、児童がしっかりとマイナス部分を理解してとらえアウトプットできている観点から評価できる。いじめも、たまたま身体的苦痛や影響を受けて、また加害者側がどのような責任を負うか範囲とした態度でしっかりと指導してほしい。 □ あいさつについて、「最近のことはあいさつをしない」という大人もいるが、あいさつをしない大人が多いことも知ること。親や地域の大人が率先からあいさつをしてくことで、子どもたちの元気なあいさつを向上させていくことも必要である。 □ 最近大人の関わりが大切だということも含めて、児童のことを考える思いや意識が保護者にも広まってほしい。			
		保：子どもは、友人関係は良好である。子どもは、いつも元気よく登校している。	3.5	3.2					
		職：いじめ・不登校ゼロに向けて、未然防止、早期発見・解決に努めることができた。	3.1	3.1					
	あいさつの励行、無言清掃の徹底	1 あいさつ運動の推進 2 無言清掃の徹底	児：気持ちのよいあいさつや返事ができている。無言でそうじができている	3.3			3.4		
			保：子どもは、気持ちのよい返事やあいさつをしている。	3.1			2.9		
			職：あいさつ向上のための取組ができた。無言清掃徹底のための取組ができた。	2.9			3.0		
	たくましい身体を育成をめざして	体力テストの課題の克服	児：よく運動をしている。	3.4			3.4	3.2 (3.2)	◆ 体力テストを実施し、昨年度より児童の体力が向上している項目もあるが、特に、縦跳び、瞬発力、持久力が低下している学年が多かった。コロナ禍の影響もあって、児童の体力向上を目指し、学校全体で取り組んでいく必要がある。 ◆ 5月よりコロナが5類となり、制限が緩和された。運動の習慣化・日常化を図り、遊びの中からも体力づくりを図るようにしていく必要がある。一方で、年間を通して、感染症の予防などによって学期別調査等を実施された。 ◆ 今年度は、感染症の予防対策を講じたから参観日、学級懇談会を計画実施できた。また、家庭で学級ではスマホ(SNS)の他、友達の授業参観や保護者の宿予などを行い、学校と家庭の連携して読書や読書について、学校からの発信を充実させることはできた。 ◆ 歯検診など様々な検診を適期実施することができた。歯の検診は100%を目指して、治療の啓発を繰り返し行っている。現在74.7%の児童の検診が完了している。今後も繰り返しで啓発を行い、100%を達成したい。 □ 感染症の予防対策など体力向上や運動の習慣化への取組が難しいこともあると思う。 □ 保護者の送迎が多いことも知ること。雨の中でも歩いてくるといふ体力をつけてほしい。 □ 早起、早寝、朝ご飯の定着や歯の清掃向上こそ、家庭の協力が不可欠で、各家庭の事情も考慮しながら粘り強く発信していく必要がある。
			保：子どもは、進んで運動をしている。	3.1			2.9		
			職：体力テストの課題克服に向けた取組ができた。	2.4			2.6		
むし歯治療率100%		1 保護者への周知・啓発 2 歯磨き指導の充実	児：食事のあとは歯みがきをして、歯を大切にしている。	3.6	3.6				
			保：治療カードが届いたら、すぐに受診させている。	3.4	3.2				
			職：治療の啓発、歯磨き指導の充実を図ることができた。	2.8	3.0				
欠席ゼロ～望ましい生活リズムの確立～		1 基本的な生活習慣の確立 2 保健便り、学校保健委員会による啓発	児：早寝、早おきができている。	3.0	3.1				
			保：子どもは、早寝、早起きの習慣が身に付いている。	3.0	2.9				
			職：基本的な生活習慣の定着を図るための取組ができた。	3.0	3.1				
地域に根差した学校をめざして	キャリア教育の推進～総合的な学習の時間の計画の見直し・改訂～	保：学校は、地域との連携が図られている。	3.0	2.8	2.9 (3.1)	◆ 地域の人材やキャリア教育支援センター「よのなか先生」の活用があまりできなかった。児童の学びが深まり、自分の生き方を考えたりするよい機会でもあることから、外部人材を招き、ときには仕事ややりがいや苦労なども含めて、語っていただく時間を設けたい。 ◆ 緊急の要件等については、すぐに安心メールで伝え、連絡がとれることができた。学校よりホームページなどを活用し、学校の情報を保護者に積極的発信することができた。年度当初緊急連絡の顔加入状況を確認し、全学年一斉に、ほぼメール加入していただくことができた。 ◆ 学校の様子や授業の様子、行事等ホームページで発信し、学級通信で発信しているが、小中一貫教育の取組の取組が難しいので保護者の理解も得ていく必要がある。次年度はより明確に発信していく必要がある。 □ 地震や自然災害など自然災害に対する危機管理への意識を向上させる必要があると感じた。地震や津波に対する避難訓練の徹底や、それらに対する行動の徹底をさらに意識していく必要がある。 □ 高齢者などの車両や学生等の巻き込まれる事故も増加している。至りないが、常に安全意識を高めて十分気を付けてほしい。 □ ようやくコロナから開放された学校もどこまで開放していいのかがまだできていないのが現状である。今後また更なる地域への輪を広げていくような取組をすすめている。			
		職：地域の方や「よのなか先生」等の活用を図り、キャリア教育の充実を図ることができた。	2.3	2.3					
	学校からの情報の発信(ホームページ)・充実	保：学校は、教育活動の様子や小中一貫教育の取組を家庭や地域に発信している。	3.0	2.8					
		職：通信やホームページ等を活用して、学校の情報を保護者や地域に発信することができた。	3.2	2.9					
	危機管理意識の向上	1 コンプライアンスの遵守徹底 2 危機管理意識の向上	保：学校は、事故防止に努め、安全に注意をはらっている。	3.3			3.1		
			職：コンプライアンスの徹底、危機管理意識の向上を図ることができた。	3.4			3.3		

※自己評価の総合()はR4の数値